

令和3年度 静岡大成中学校 学校評価書

<評価基準(達成度)> A 80%以上 B 50%以上 80%未満 C 30%以上 50%未満 D 30%未満

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
目指す教師	1. 厳しく、あたたかく、生徒と同じ位置で指導する。	良いことと悪いことをはっきりと示す。生徒の人権を尊重し、子ども扱いしない。力に頼った指導をしない。	A	中学部内で情報を共有し、悪いところはしっかり注意し、良いところを認める指導を実践した。教員が各自自覚をもってしっかり指導した。	A	高校よりも、生徒とともに行動することが多いが、自己評価は厳しめの評価がみられる。
	2. 率先垂範を実行する。	目指す生徒を自ら実行する。正しい言葉遣いで話す。先頭に立って生徒を導く。生徒と一緒に汗を流す。	A	教員が生徒と一緒に活動し、生徒の活動をサポートしながら、生徒が達成感を感じられるような働きかけや言葉かけを実践することができた。	B	中学は高校よりも職員数が少なく、人間関係も濃くなる場所があるが、そこをうまく活かし、自己評価にあるように、今後もクラス・学年・教科の枠を超えた協力体制を図りたい。
	3. ビジョンを持って一生懸命努力する。	できない理由を探す前にやってみる。ぶれない・あきらめないこと。	A	生徒の様々な事象に対してあきらめずに言葉かけ、働きかけをした。教員側のぶれない態度が生徒にも伝わっていると感じている。	B	iPad の活用に関して、教員間で情報共有が図られていたと感じる。
	4. 私学人としての自覚と理想を持っている。	学校の発展を共通目的とする。私学だからできること、私学だからやらねばならないことを実行する。保護者と良いリレーションを築く。	A	学習環境の維持に努め、学力向上・進路実現に向けて努力した。保護者が求めている、私学の面倒見の良さや連携を心がけた。	A	
	5. チームとしての教員集団である。	前向きで明るい性格になる。仲間の良いところを認める。仲間と真のコミュニケーションを図る。常にポジティブな表現を使う。	B	教員同士がクラス・学年・教科の枠を超えて、生徒の指導に努めた。また、副担任がクラス担任を補助し、足りない部分をしっかり補っていた。教師の指導力や経験値に差があるため、さらに学年や中学で協力して生徒に対応していきたい。	B	
学習指導	1. 基礎学力を身につけた生徒を育成する。	① 授業を真剣に取り組ませる。 ② 授業中の机間巡視、課題の提出及び点検、小テストの実施等によるきめ細かな指導。 ③ 必要な場面で、義務教育内容の学習や級別テストの内容を取り入れた授業の実施。 ④ 「わかる授業」「楽しい授業」「身につく授業」を実践する。	A	授業中はしっかり話を聞き、静かに落ち着いて学習させる。課題は必ず出させる。小テストや検定に向けた学習など、基礎力の育成に努めた。それぞれの教員が教科の特性を生かして授業の工夫を行った。iPadを活用する教員が増え、教員のスキルが向上した。	B	中学においては、勉強に対するレベルの高さがうかがえる。iPadの活用度も高く、英検の合格率も高かった。今後も有効利用していきたい。
	2. 学習習慣を身につけた生徒を育成する。	① 進路や将来に関する話をし、学習に対する目的を持たせる。 ② 小さな進歩を見つけ褒めて、生徒に自信を持たせる。 ③ 宿題を与え学習習慣を身につけさせる。初期指導を大事にする。 ④ 毎日 1P ノートを実践し、学習習慣を身につけさせる。	B	1P や各教科での学習課題等はこまめに点検し、必ず提出しなければいけない雰囲気を作ってきた。多くの生徒はしっかりできているが、各クラス数名の指導に手を焼いている。学年や中学で協力して指導を徹底していきたい。	B	iPadの導入・活用は大変だったと思うが、レベルの高い教育を行っていただき大変ありがたく思う。
	3. ICTを活用した授業を展開 学力の3要素である思考力・判断力・表現力や、主体性・多様性・協働性を身につける授業の研究および実践をする。	① ICTの活用法について、自己研修や教科会での研究を行い、実践につなげる。 ② 学力の3要素を身に付けさせる授業において、自己研修や教科会での研究を行い、実践につなげる。	B	コロナ渦の中でのリモート授業が当たり前になっている。iPadを授業で活用する場面も増えた。今後はICTを使うだけではなく、それをどのように学力の3要素と結びつけるのか、学力向上に活かしていくのか検討が必要である。	B	

令和3年度 静岡大成中学校 学校評価書

<評価基準(達成度)> A 80%以上 B 50%以上 80%未満 C 30%以上 50%未満 D 30%未満

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
進路指導	1. 生徒に自己を正しく理解させ、自らの進路を主体的に選択・決定させる。	①検定や模試を受験させ、学力を客観的に把握させる。 ②部活動・委員会活動・その他の活動を詳細に残させる。 ③早期の進路目標を設定させ、受験に向けた対策をさせる。	B	1年生からの徹底した学習指導の成果が、検定の合格率や取得率向上につながった。1年生の内から進路に向けた意識づけを行い、小さな目標をクリアする喜びと経験を積ませていきたい。	B	進学先について、静岡高校や高専、県外の専門科などが例年より多く、よい結果がでていると思う。生徒ひとりひとりに合わせた指導が行き届いているのではないかと。
	2. 生徒一人一人の進路希望の実現に全力を注ぐ。	①生徒が目指す目標を把握し、課題や改善策を考える。 ②教員間で生徒の進路に関する情報を共有しあう。	A	生徒の模試の結果の共有、中学進学係を中心に進路に向けた働きかけがしっかりできた。	B	
生徒指導	1. 建学の精神/校則に基づいた指導をする。	①学校生活のリズムを作るような働きかけ。 ②自分たちの学校をきれいにしようとする気持ちを育てる。 ③一生懸命やろうという気持ちにさせる。 ④生徒一人一人と向き合う時間や機会を増やす。	A	学習に向かう態度、制服の着用、頭髪、ベル着、整理整頓、挨拶等、中学生らしい生活態度を身に着けさせることを徹底してきた。活動の基本となる部分なので、今後も継続して指導をしたい。	A	自己評価にあるように、態度や服装などもしっかりしており、大きな問題はないと考える。
	2. 安全・安心な学校づくりの徹底をする。	①正しい判断と行動ができるように常日頃話しかけをする。 ②相手を思いやる気持ちを育む。 ③スマートフォンやiPadなどの情報機器の適切な使用を指導する。	A	iPadの所有が始まり、使用の仕方について中学部で統一した指導を行った。今後も情報管理のルールやモラルをしっかり守らせ、正しく使用するように指導を徹底させたい。	A	生徒指導のスキルアップに関しての教員間の個人差は、向上を図りたい。
	3. 生徒指導のスキルアップをする。	①全教職員が様々な場面で生徒指導を行う意識を持つ。 ②生徒指導において必要な力を身に付けるよう努力する。	B	中学部全体で統一した指導を心がけてきた。教員の経験値が違うので、より一層、スキルが向上するよう努力していきたい。	B	
ICT 地域貢献	1. 情報セキュリティ対策を万全とする。	①生徒・教員の情報セキュリティの意識レベルの向上を図る。	A	情報化社会に必要なスキルである。各教員が意識をしてしっかり取り組んだ。	A	ICT 管理については高度な管理がされている。スターライトクラスのお迎えの車で近隣住民の迷惑となったため、来年度は自転車通学を可とし、お迎えの場合は別の場所に対応していく。
	2. 学校に誇りを持ち、地域に奉仕貢献する。	①地元根差し開かれた学校として、地域連携活動を行う。	B	学校周辺の地域には日頃迷惑をかけていることが多い。何かしらの形で日頃の感謝を伝えたいが、どんな形で実施できるのか検討したい。	B	
広報活動	1. 「全員広報」の意識を持ち、生徒募集に寄与した広報活動や日常業務を遂行する。	①本校の特徴や生徒の活躍を広くアピールするとともに、在校生と保護者の満足度を上げ、口コミでのPRにつなげる。	B	コロナ禍により2年連続で、一部のオープンスクールが中止となった。さまざまな方法を駆使して、本校へ興味を持ってもらう機会や本校の良さを感じてもらえる機会を増やし、受験者数の増加につなげていきたい。来年度の新入生の25%が卒業生の兄弟姉妹であることは、生徒・保護者が満足して卒業した結果である。日頃のクラス指導や学習指導、生徒指導や保護者対応等をしっかりとすることが、何よりも大切である。	B	来年度の新入生の25%が卒業生や在校生の兄弟姉妹であることは、中学の良さが伝わっていることであり、ありがたいことである。説明会では親子がどんな学校なのか興味を持ちわくわくしている様子をうかがえることがあった。学校のよい点をしっかりアピールしていけたらよい。